

夏休みに読んでみたい本

対象	書名・作者名（出版社・定価）	内 容 解 説
低 学 年	雨の日は、いっしょに 大久保雨咲／作 殿内真帆／絵 （佼成出版社 1,200 円＋税）	学校の傘立てで待つ傘たちは、いろんな持ち主の傘と話をし楽しそうです。ぼくは、ハルくんの黄色い傘です。違う持ち主に会ってみたいので旅に出ます。離れてみてわかる気持ちに、傘目線で触れることができる本です。
	わっはは ぼくのなつやすみ おのりえん／作 タダサトシ／絵 （こぐま社 1,400 円＋税）	祖父の家に、初めてひとりで泊まった夏休み。ぼくは、虫博士の祖父といっしょにたくさんの虫を捕まえます。作者の少年時代の絵日記を基にした絵本で、ぼくが虫に興味を持っていく様子が丁寧な絵で描かれています。
	プラスチックのうみ ミシェル・ロード／作 ジュリア・ブラットマン／絵 川上拓土／訳 磯辺篤彦／監修 （小学館 1,500 円＋税）	人間が捨てたごみの中で泳ぐ魚、その魚を食べるアザラシ。次々につながり、最後はまたごみを捨てた人間に戻ります。絵の美しさが、人間の責任をより深く問いかけます。環境について考えるきっかけになる絵本です。
中 学 年	たったひとりのあなたへ フレッド・ロジャーズからこどもたちへのメッセージ エイミー・リード／文 マット・フェラン／絵 さくまゆみこ／訳 （光村教育図書 1,500 円＋税）	病弱でいじめを受けていた少年が成長しテレビの仕事をするようになると、画面から子どもたちに自己肯定の大切さを伝え続けました。実話に基づいた人間の一つの生き方をそっと差し出してくれます。やさしい雰囲気絵も素敵です。
	ぼくのあいぼうはカモノハシ ミヒヤエル・エングラ／作 はたさわゆうこ／訳 杉原知子／絵 （徳間書店 1,400 円＋税）	ルルスのお父さんはオーストラリアに単身赴任中です。ある日ルルスは、動物園から逃げ出した人間の言葉を話すカモノハシに出会います。オーストラリアに帰りたいカモノハシと、お父さんに会いたいルルスの心温まるお話です。
	タコとイカはどうちがう？ いきものくらべるしゃしんえほん 峯水亮／写真 池田菜津美／文 杉本親要／監修 （ポプラ社 1,800 円＋税）	足は何本？切れたらまた生えてくる？様々な疑問について、丁寧な説明がなされています。見開きページでは、写真とイラストでタコとイカを見比べることができ、興味を深めながら、両者の生態を学ぶことができます。
高 学 年	長浜高校水族館部 令丈ヒロ子／文 紀伊カンナ／絵 （講談社 1,500 円＋税）	「えっ？こんな高校があるの!？」と思わず叫んでしまうような本当の話です。長浜高校には「水族館部」があって、魚をこよなく愛する生徒が、アツい思いをもって水族館を運営しています。
	昔はおれと同年だった田中さんとの友情 椰月美智子／作 早川世詩男／絵 （小峰書店 1,400 円＋税）	6年生の拓人たちはスケボーができる場所を探していて、神社の管理人をしている85歳の田中さんと出会います。田中さんとの交流を通して、戦争について知り、学校で講演会を開こうと奮闘していきます。
	星空をつくる プラネタリウム・クリエーター大平貴之 楠章子／作 （文研出版 1,400 円＋税）	プラネタリウムの星空には、多くの人の夢も一緒に映し出されています。世界初の家庭用プラネタリウム開発者である大平さんが、夢へと挑戦していく姿を紹介します。